

アスベスト

たたかいは大詰め

新参議院議員に賛同要請

9月12日、東京高裁1001号法廷で首都圏建設アスベスト訴訟神奈川第2陣の第3回期日が開かれました。この日は配管工の曝露実態、遺族原

告からの被害実態の尋問と、1番で認められなかった一人親方の労働者性を柴田若手県立大学講師が学者的立場から証言するなどの内容でした。

午前9時から、東京高裁前にて約300人で集会を行ない、終了後、入廷者を送りだし、衆議院第1議員会館に移動し、院内集会を開催。藤田弁護士からの第3回期日の内容説明、原告の吉田さん(村山大和)らの発言などがあつた後、清水訴訟統一本部事務局次長から行動提起。清水さんは、前日に第4次安倍再改造内閣が発足し、訴訟に關係する新大臣らに地元の組合から要請強化を話した上で、大詰めを迎えた闘いで各ルートの訴訟を必ず勝利すること、地方議会への意見書採択を来年3月議会までには決着をつけること、また2つの署名を大きく広げることなどをやりきろうと訴えました。

終了後に、参議院選挙結果での新議員など未賛同議員へ組を作って要請しました。

集団的自衛権を容認する安保法制(戦争法)が参議院で強行採決されてから4年目にあたる9月19日、国会議員会館前を中心に、「戦争法廃止」「安倍9条改憲ストップ」などの要求を掲げて月例の総がかり行動が行なわれ、約3000人(東京土建は62人)が参集しました。

「4年前の戦争法成立の悔しさや私たちは忘れない。台風被災者救済より内閣改造に心を奪われていくような安倍改憲シフト内閣ノックアウトを打倒しよう」と呼びかけました。

英司(国民)、田村智子(共産)の4議員が「会派合流」「連合政権」など、政権交替への体制を強化することをそれぞれの立場からスピーチしました。

参加者の中では、首相が犬の顔になっているワンポイントが左胸の所に入った揃いのTシャツを着た高校生のグループがひととき目立っていました。

となる都心部連携協議会によるこの取り組みには、台東・江東・港・渋谷・新宿の5支部から24人が参加。仕事を終えた従事者の皆さんに、チラシとティッシュ、塩飴、ブラスチック綿棒のセットを配布しました。



勝利への課題をやり切ろうと参加者全員で団結ガンバロー(衆議院第一議員会館大会議室)

午前9時から、東京高裁前にて約300人で集会を行ない、終了後、入廷者を送りだし、衆議院第1議員会館に移動し、院内集会を開催。藤田弁護士からの第3回期日の内容説明、原告の吉田さん(村山大和)らの発言などがあつた後、清水訴訟統一本部事務局次長から行動提起。清水さんは、前日に第4次安倍再改造内閣が発足し、訴訟に關係する新大臣らに地元の組合から要請強化を話した上で、大詰めを迎えた闘いで各ルートの訴訟を必ず勝利すること、地方議会への意見書採択を来年3月議会までには決着をつけること、また2つの署名を大きく広げることなどをやりきろうと訴えました。

終了後に、参議院選挙結果での新議員など未賛同議員へ組を作って要請しました。

フクシマ終わらない 脱原発求め8000人で集会



代々木公園の会場

9月16日、代々木公園で「さよなら原発全国集会」が開催され、約8000人(東京土建は173人)が参加しました。主催者を代表して、作家の

落合恵子さんは「原発事故被害のコントロールは一つもできていない。福島の人たちの苦しみを募り、私たちの怒りもさらに募っている。来春から福島原発の損害・賠償・廃炉費用を電気利用者、グリーンエネ発電業者から徴収することが決まった。国や東電の無責任さを忘れてはいけな

い」などと話しました。福島から、東海村からたたかいた報告があり、核廃絶を求める高校生1万人署名活動、辺野古埋立阻止の運動などからも連帯の発言がありました。

公園内には集会開始前から、各地で活動する団体などが集まっています。

この現場のすぐ近くにある(株)きんしの社屋には、東京土建の垂れ幕と看板広告が設置されています。都心部連携協議会では、このような現場宣伝を継続的に位置づけ、東京土建の存在を現場の内外にアピールしていきます。

五輪関連現場で宣伝 労働環境聞き加入も訴え

9月19日、江東区辰巳にあるオリンピック水泳競技場アクアティクスセンター前で、夕方宣伝を行ないました。2月18日に行なった現場宣伝行動の第2弾

となる都心部連携協議会によるこの取り組みには、台東・江東・港・渋谷・新宿の5支部から24人が参加。仕事を終えた従事者の皆さんに、チラシとティッシュ、塩飴、ブラスチック綿棒のセットを配布しました。「現場宣伝とあわせて現場の声を聞きながら、東京土建をアピールして拡大につなげれば」と話すのは、中村隆幸副委員長。実際、前回の取り組み後には、ティッシュを受け取った職人から電話が本部にあり、「トイレが少ない」「詰所までは往復25分」「納期ありきの長時間の拘束」などの訴えがありました。今回の宣伝中にも、「橋樑支部で加入手続き中」という対象者と出会う場面も見られました。

今月の主張

改憲より社保や経済を

安倍首相は9月11日、改造内閣を組閣しました。麻生・菅氏を除く13人が交代、初入閣が13人ですが、首相側近が多くを占めています。小泉進次郎氏が初入閣したこともあり、政権刷新アピール、後継人事、政権浮揚人事とも言われています。

首相は会見で「安定と挑戦の強力な布陣を敷く」「我が党の長年の悲願である憲法改正を党一丸となって力強く進めたい」と述べました。

しかし期限を区切った首相の性急な改憲を警戒する世論は変わっておらず、与党公明党からも「憲法の問題は内閣が提案する課題ではない」という推測もあります。

いこの強い意志がうかがえ、そのために解散総選挙を勝たなければならぬ、そのための小泉入閣で、いわば4選の可能性を残した改造内閣という推測もあります。

さらに社会保障の問題では「新たな全世代型社会保障検討会」を設けるとして、公的年金や医療制度改革に重点を置くとしています。働く高齢者を後押しすると称して、年金受け取り年齢を伸ばすのが柱です。

それは支給開始年齢を遅らせるほど支給年金額を増やすとしています。が、実際は多くの人が長く働く環境を整えるというものです。

そこに関わる国民の負担と給付の見直しは先送りのままで、社会保障の「解体」と「営利化・市場化」「地域再生」の三位一体政策であることに変わりはありません。

政権主導の改憲論議阻止と、参院選後の国民世論の圧倒的多数を占める「社会保障」「経済政策」こそ、優先的に取り組む課題です。

あくまで増税中止を

都内3カ所でキャラバン



訴える松本副委員長、後方は司会を務めた齋藤常任中執

9月13日、東京都連は10月消費増税中止を求めるキャラバン行動を有楽町マリオン前、渋谷ビックカメラ前、新宿駅西口の3カ所を回って行ないました。

最後の宣伝場所の新宿駅西口では、都連の他組合の仲間も含め39人が参加しチラシなどを配布しながら、4人の弁士が訴えました。松本久人副委員長(東京土建副委員長)は「建設労働者は他産業の労働者に比べて、年収も低く生活は厳しい。消費税が引

き上げられれば、さらに苦しくなる。消費税10%をはじめとする大衆増税に反対だ」と述べ、また渡辺睦都連執行委員(東京土建専従常任中執)は大企業や大金持ちの税負担をふやすべきだと話しました。

宣伝物を受け取った中野区から来たという女性は「83歳の親の介護が大変。増税に備えてトイレトペーパーや介護用のオムツなどを買いだめしている。皆さんと同じように消費税増税には大反対」と話していました。